校庭での遊びの工夫

足利市立山前小学校

1. 研究課題

自分達で安全性を確かめ合いながら
積極的に遊べる児童の育成

2. 課題設定の理由

本校は、児童数が955名という大規模校である。しかし、児童数の増を防ぐため、校庭があまり広くないし、また、固定施設も少ない。そのため、休み時間に大勢の児童が自由に遊ぶと、安全性という面でやや問題がある。

このような事情から、休み時間の校庭利用については、「山前小の決まり」の中で「ボールはけならない。」「バットは降らない。」「固いボールは使用しない。」などの決まりがある。児童は、このような決まりの中で、校庭を利用し遊んでいたことになる。

ところが、今年度の児童会総会で、「児童からのお願い」というところで、「休み時間にボールを使って遊びたい。」「サッカーをやってほしい。」という提案が出された。このような意見をもっていた児童は一人ではなかった。そこで、代表委員会で話し合っていくことに決定した。

児童の遊びとは、本来自由なものである。しかし、学校としては、ある程度危険が予測される遊びについては、学校の決まりの中で児童の遊びの内容を規制しているのが現状である。本来自由であるべきものが、学校の考え方に規制されているわけではないから、「休み時間にボールを使って遊びたい。」「サッカーをやってほしい。」という児童の願いは、当然の願いとしては我々は受け止めていかなければならない。

ボール遊びについては、特に中学年に関わる問題であるが、同じような問題が、固定施設を利用し遊んでいる学年にもある。例えば、固定施設が少ないために思うように遊べないということや、固定施設を利用した遊びにおいても、不注意な使い方をするのでが多いたことなどである。

そこで、「自分達で安全性を確かめ合いながら積極的に遊べる児童の育成」という研究課題を設定することにした。大きさがきるしていて、みんなが楽しく遊べるようにするには、どうしたらよいかを自由な遊びの体験を通して、児童自身に気付かせ、積極的に遊べる児童を育成したいと考えたわけである。児童の遊びの体験を通しての姿容が、我々自身が学校の決まりを見直していく機会にもなるはずである。

3. 学校課題と

(1) 「個に着目
本校では、す
点目標にかかげ
適切な指導をし
本研究において
よく遊ぶ子）」と
要すると思われ
察や指導を進め
(2) 「聞く意欲
本校では、「
を進めてきた。
具体的な手だて
本研究では、
くる。そこで、

4. 研究推進構

○教師の研究
- 本校児童の遊びの
遊び方調査01
- 遊び方調査02
- 「校庭自由遊び」
- 研究授業を通じて
- 遊び方の指導の進
3. 学校課題とのかかわり
(1) 「個に着目した指導」とのかかわり

本校では、すべての教育活動の場において、「一人一人の児童を認め励ます指導」を重点目標にかかげて取り組んでいる。それを達成するために、児童の実態をしっかりつかみ、適切な指導をしてきている。

本研究においても、「けがをする子」「けがをさせる子」「けがをしない子（遊ばない子・よく遊ぶ子）」という3つの視点を設け、一人一人に目を向け、その中で特に指導を要すると思われる児童を「配慮児」として選び、遊びの実態、安全への考え方を通じて観察や指導を進めてきた。（詳細は「指導の実際」に載せている。）

(2) 「聞く意欲・話し意欲を育てる指導」とのかかわり

本校では、「聞く意欲・話し意欲を育てる指導」を平成2年度の学校課題として、研究を進めてきた。低・中・高学年それぞれに「目指す児童像」を求めて、全教育活動を通じて具体的な手だてを考え、実践し、課題に迫ろうとしてきた。

本研究では、「学級活動」を中心とした話し合い活動が研究解決のために重要になってくる。そこで、活発な話し合いができるような手だてを講じて指導するよう心がけてきた。

4. 研究推進構想

〇教師の研究
- 本校児童の遊びの実態と課題の把握
  遊び方調査1 構造物に伴う危険
  遊び方調査2 遊びの傾向と問題点
- 「校庭自由遊び」を通しての研究
- 研究授業を通しての研究
- 遊び方の指導の工夫

〇児童の実態
- 観察による調査
- 遊び方調査（3回）
- アンケートによる調査
- 学級担任の見方

〇家庭との連携
- 山村通信
- 学年だより
- 学年会
- 学級通信
- 連絡ノート

〇家庭との連携
- 木村通信
- 学年だより
- 部会
- 連絡ノート

学校教育目標

研究主題

自己で安全性に組み合わせながら
積極的に遊べる児童の育成

下学年

大好きなができないで楽しく遊ぶにはどうしたらよいか。
教師の関与によってが楽しく遊べるようにするにはどうしたらよいか。

上学年

児童がみんなが楽しく遊べるようにするにはどうしたらよいか。

研究の推進構想

児童の実態
5. 研究実践
(1) 研究経過

<table>
<thead>
<tr>
<th>月</th>
<th>児童の活動</th>
<th>教師の活動</th>
</tr>
</thead>
</table>
| 4  |  | ○ 校庭の使い方に関する「山前小のきまり」の再検討について話し合う。
| 5  | ☆ 児童会総会
「休み時間、ボールをけりたい」という意見が出される。 | ○ 総会での児童の意見についてどう取り扱うか話し合い、「自由遊び」を試行することを決める。 |
| 6  | ★ 校庭での自由遊び（1回目） | 遊びの様子 アンケート
児童の感想 教師の観察
(問題点を話し合う。) |
| 1/2学級活動 |  |  |
| 6  | ★ 校庭での自由遊び（2回目） | 遊びの様子 アンケート
児童の感想 教師の観察
(問題点を話し合う。) |
| 1/2学級活動 |  |  |
| 7  | ★ 校庭での自由遊び（3回目） | 遊びの様子 アンケート
児童の感想 教師の観察
(問題点を話し合う。) |
|  | 学級活動 (下学年) 大きな声をしないで楽しく遊ぶには
(上学年) 校庭でみんなが楽しく遊ぶには |  |
| 10 |  | ○ 校庭での遊び方について話し合い方向を決める。 |
| 11 | ☆ 願いが実現
休み時間にボールをけって遊ぶことができる。 |  |

(2) 児童の実態
① 遊び方調査
「自分達で予め
迫るためには、やるのか、どちらかという実態を
(児童の遊び方調査)
(2) 児童の実態とその指導
① 遊び方調査（5月）
「自分達で安全性を確かめてから積極的に遊べる児童の育成」という研究課題に
迫るためには、まず児童が、学校生活の中で、どんな場所で、どのような遊びを好んで
やるのか、また構造物に伴う危険性はないのか、さらには、遊び方の問題点はないのか
という実態を把握していく必要がある。そこで、全児童を対象に実態調査を行った。
(児童の遊び方調査①) 1990、5月

<table>
<thead>
<tr>
<th>種 目</th>
<th>遊びかた</th>
<th>構造物に伴う危険</th>
<th>遊び方の問題点（指導を要する点）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>低 中 高</td>
<td>（要修繕を含む）</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
| ブ ラ ン コ | ◎ △ △ | 摩耗が激しい。交換の時期
     |       | ではないか。   | 立ち乗り、こぎすぎ、ふり乗り、
     |       | 鉄板が切れるものがある。| 斜め乗りで踏み子またはブランコとぶつ
     |       | 鉄板の切れるので注意。| る、飛び下り子、ブランコどうしを
     |       |                   | ぶつける子。                        |
| て っ ぽ う | ◎ ○ △ | 鉄板が回ってしまい、すべて |
     |       | で落ちた子がいる。 | 手を離しておちる。
     |       |                   | 押される。
     |       |                   | 他の子が近付いたり、入ってくる。 |
| る く ぼ く | △ △ △ |                   | 押されることがある。               |
| ジャングルジム | △ △ | 縮れている場所である。（高） | ボール投げをしながら乗る子。
     |       | ペンギがはげている。塗り
     |       | 直しつよい。     | 上級生にいかれた。（低）          |
| 登り棒 | △ △ △ | ぐらぐらする。ペンギがは
     |       | げて、塗料がつく。 | 下で遊んでいる子がいるので、降り
     |       |                   | るときがこわい。                   |
| 筑 山 | ◎ ○ △ | すべり台が急すぎる。小さい |
     |       | 滑り台の最後の部分がとび
     |       | 出いて危険。      | 押されることがある。石をぶつけら
     |       |                   | された。（低）                    |
     |       |                   | 手摺りに足を入れて滑かせた子が
     |       |                   | いた。（中）                      |
     |       |                   | トンネルから勢いよく飛び出してく
<pre><code> |       |                   | る子がいる。（高）                 |
</code></pre>
<table>
<thead>
<tr>
<th>種目</th>
<th>遊びかた</th>
<th>構造物に伴う危険（要修繕を含む）</th>
<th>遊び方の問題点（指導を要する点）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>サッカーゴール</td>
<td>△ △ △</td>
<td>ネットが切れている。</td>
<td>・ネットの扱い方が乱暴、網に足を引っ掛け、網に遊ぶ。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>・みんなで使うとボールが使えない。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>・走っていてボールに気づかずぶつかった。</td>
</tr>
<tr>
<td>バスケットボール</td>
<td>△ △ △</td>
<td>ゴールが揺れる。振が大きい。</td>
<td>・上に登る子がいる。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>・コートで手打ち野球をする子がいる。</td>
</tr>
<tr>
<td>スーパーマン</td>
<td>△ △ △</td>
<td>桜の木の枝が揺れるときぶつかる。桜が短く乗りにくい。</td>
<td>・スピードがついて、着いたとき飛ばされる。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>・手がすべり、落ちた子がいる。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>・他の子が急に前を横切る。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>・あふれ无人机をする子（ふたり乗りなど）</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>・1、2年生は禁止されているのに、乗る子もいる。</td>
</tr>
<tr>
<td>タイヤ・三角柱・ストレッチ</td>
<td>◎ ○ △</td>
<td>回りに石やガラスが落ちている。タイヤがすべる。地面の凹凸があり、とびやすい。</td>
<td>・強く早く飛べる子と練習している子にとって差があり、邪魔物扱いされたり存分に遊べない子がいる。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>雨の次の日は水がたまっている。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>パックネット</td>
<td>△ △ △</td>
<td>破けている。</td>
<td>・登る子がいる。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>・ほとんど使わない。（低）</td>
</tr>
<tr>
<td>丸太のアスレチック</td>
<td>△ △ △</td>
<td>雨が降ると滑りやすい。木が湿って滑れている。</td>
<td>・突き落とされる。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>・上級生にとかされた。</td>
</tr>
<tr>
<td>そびえ箱マット</td>
<td></td>
<td>布が破れてく。手を避けたとき中にもくつってしまう。危険。</td>
<td>•足に悪い影響を与えるのでは。</td>
</tr>
<tr>
<td>体育小屋</td>
<td></td>
<td>収納スペースが狭く、子供による出し入れが危険と感じるときがある。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>興芸館</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>校庭</td>
<td></td>
<td>固く、滑りやすい。石なども多い。</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

（遊び方調査②）
### 遊びの傾向と問題点

<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>低学年</th>
<th>中学年</th>
<th>高学年</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>遊びの傾向</td>
<td>集団での遊びはできない2~3人の固定的施設を使った遊びが多い。（1年）</td>
<td>固定施設の利用は少ない。</td>
<td>頭こご工夫し、安全に気を付けて遊んでいる。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>体育で鉄棒やトヨをすると、休憩時間でも同じことをする傾向がある。（1年）</td>
<td>男子はボール遊び、手打ち野球が多い。</td>
<td>ドッチボール、どろん、手打ち野球など。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>鉄棒の見習い以外の子が多いので、毎日スピーキーでいる。</td>
<td>鉄棒の見習いが少ない。</td>
<td>固定施設の利用は少ない。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>体育で鉄棒やトヨをすると、休憩時間でも同じことをする傾向がある。（2年）</td>
<td>体育で鉄棒やトヨをすると、休憩時間でも同じことをする傾向がある。（2年）</td>
<td>体育で鉄棒やトヨをすると、休憩時間でも同じことをする傾向がある。（2年）</td>
</tr>
<tr>
<td>遊具の使い方</td>
<td>早く行かないと乗れない。</td>
<td>ドロジンは女子ともやっており、遊び場の取り合いが少ない。</td>
<td>鉄棒、登り棒などは体育でもやっており、休み時間にも練習するように勧めていくが、あまりやらない。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>交替して仲良く使うことが下着である。</td>
<td>遊具の使い方</td>
<td>遊び場の取り合いが少ない。</td>
</tr>
<tr>
<td>問題</td>
<td>1年生への思いやりに欠けた面がある。</td>
<td>部屋から出たがらない子がいる。</td>
<td>遊び場の取り合いが少ない。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>上級生にどこされるか</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>遊具が少なく、老朽化しているものが多い。</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>低鉄棒の数が少ない。</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>高鉄棒はほとんど利用されていない。</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

○下学年について
固定施設を利用した遊びが多く、集団で遊ぶことは少ない。固定施設を利用すると、男の子の勝ちという意識があり、風格が守れなかったり、危険な利用をしたりしている児童も少なくない。また、高学年児童に比べて少ない場合もある。

○上学年について
固定施設を利用した遊びは少なく、ボールを使用した遊びが多い。場所が固定されていないので、混雑した中でぶつかり合ってしまう危険性もある。周囲で遊んでいる児童への迷惑を考えないで遊んでいる児童がいるので配慮が必要である。
(イ) 結
(校庭自由遊び観察結果)

<table>
<thead>
<tr>
<th>学年</th>
<th>配慮児童</th>
<th>場所</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>T・S</td>
<td>会議室</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>K・T</td>
<td>会議室</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>T・S T・N</td>
<td>会議室</td>
</tr>
</tbody>
</table>

② 校庭での自由遊び（実施3回・6月）
（ア）校庭での自由遊びの計画

〇目的
自分達で安全性を確かめ合いながら、積極的に述べる児童の育成を図る。
・校庭を自由に開放することによって、児童の遊びの実態を知る。
・児童の遊びの実態を知ることによって、よりよい児童の遊びについて思考していこう。

〇日時
第1回 校庭自由遊び  6月6日 昼休み
6月7日 昼休み
第2回 校庭自由遊び  6月18日 昼休み
6月19日 昼休み
第3回 校庭自由遊び  6月25日 昼休み

〇事前指導（学級活動）
・児童会総会で、サッカー解禁の要望が児童の意見として出たことを確認する。（ただし、意見として、危険なだけで反対という意見も出た。）
・試行的に校庭での遊びの内容を規制しないで自由に遊べる日を設けることを知らせる。
・みんなが（全児童が）、楽しく遊べるようにするには、どうしたらよいかということを考えさせていく。
・6月6日、7日の昼休みは、自由に遊んでよいことを知らせる。
※サッカー、野球、ソフトボール（固いボール、バット、ゴルフ等使用可）等の解禁。
※「みんなが楽しく遊べるようにする。」ことを児童に考えさせていくことに視点を置いていくようにしていく。

〇観察、指導、記録
・校庭自由遊びの昼休み、担当学年、学級の配慮児童を中心に、児童の遊びの実態を観察、記録する。
・児童への現場指導は、原則として不要とするが、特に、危険が予測される場合については、その場で指導していくようにする。
・帰りの会等で、学級の児童に感想を聞き、記録する。
・記録用紙を係まで提出する。

上記のような実施計画に基づいて、特に学級の配慮児童を中心に、全職員が、校庭自由遊びの観察、指導、記録を行った。
次に掲げる資料は、6月18日、19日に実施した校庭自由遊びの観察、指導、記録の結果である。配慮児童が、どこで、どのような遊びをしていて、教師がどのように感じたかがわかるようになっている。

- 110 -
### (イ) 結果

(校庭自由遊び観察結果（特に問題となる事項）)

<table>
<thead>
<tr>
<th>学年</th>
<th>配慮児童</th>
<th>場所</th>
<th>遊びの様子</th>
<th>教師の感想</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>T児・S児</td>
<td>校舎と校庭の間の道路</td>
<td>T児→2日間ともポール遊び。クラスの児童とは遊ばない。ひまわりを2度倒したので注意した。S児→鉄棒で「ふたのまるやき」をやる。学級の友達と綱引いや転車ごっこをやる。ボールを持って来たが、誰も遊ぶ相手がいなかった。A児とプランコを交代でやっていった。</td>
<td>たずらやちょっとが多い児童だが、今日は、A児と仲良く遊んでいた。</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>K. O</td>
<td>ブランコ</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>T. S</td>
<td>東非常階段付近</td>
<td>トカゲを捕まえて、通りがかりの低学年の児童に教えて書かしていた。-roティーグリーマー、他の児童がローラースケートをしていて見ていた。スーパーマン、ボール遊びをしていった。6年生のキャッチボールの間を通り抜けることもあったが、周りの様子に気を配っていた。</td>
<td>教室では、人目をはばからず一人で遊ぶことが多いので、外では、消極的な遊びをする。</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>K. T</td>
<td>アスレチック内</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>T. F</td>
<td>校庭</td>
<td>野球（プラスチックバット使用）</td>
<td>以前、パットを友達に付けたことがあったので今回は、注意をしていたようだ。低学年の児童が、高学年の児童の間をぬって走り回っているので危険。校庭を分ける方がよい。</td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td>T.S T.N</td>
<td>校庭東1年校舎前</td>
<td>ドッチボールを使っての手打ち野球。ボールを夢中で追いかけ、他の児童が遊んでいる所へボールがいってしまうこともあった。打ったボールがどこへ飛んでいくかわからないという点で危険。人にぶつかるということを打つ時にやる時は、考えていない。場所を選ぶ必要があります。ルールのことも考えさせたい。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>学年</td>
<td>配慮児童</td>
<td>場所</td>
<td>遊びの様子</td>
<td>教師の感想</td>
</tr>
<tr>
<td>------</td>
<td>---------</td>
<td>------</td>
<td>------------</td>
<td>------------</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>M.W</td>
<td>校庭</td>
<td>前回ボール投げをしている時に、上級生の投げた野球のボールにぶつかった。今回は、何をしてよいかわからない様子だったので、中盤に話して一緒に遊んだ。</td>
<td>自分から友達の中に入ってしまいなければ。遊び方を教えていきたい。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>M.K（他数人）</td>
<td>校庭</td>
<td>ポコベン。とても、楽しそうに走り回っていた。道具なしで、周りに危险もなかった。</td>
<td>どの児童も対等の立場で遊んでいた。教師の説明をよく聞いて、遊びのルールを教えてくれた。</td>
</tr>
<tr>
<td>T.K</td>
<td>校庭</td>
<td>友達5人と遊んでいた。ジャンクション、鬼ごっこ、よく戦、松ぼっくりなども投げていた。</td>
<td>石投げだと思ったら、松ぼっくりだったので、特に指導はしなかった。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>T.Y</td>
<td>バックネット前</td>
<td>手打ち野球。雑魚でやっていたので、児童同士で注意し合い、勝手な言動もなく、比較的問題なく参加していた。</td>
<td>児童間の動きが行われていて、配慮児も注意をしながら楽しんでいた。児童間の動きが、安全に心がける習慣につながる。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>K.S（他15人）</td>
<td>希望の像前</td>
<td>バーで手打ち野球。前回は団体ボールでキャッチボールをしていた。</td>
<td>配慮児についても、特に問題なし。前回より道具を持ってくる児童が減った。持ってきても安全なものが多くなった。安全に対する意識が高まっていて、思うように思う。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>I.S</td>
<td>西サッカーゴール</td>
<td>6年生とサッカーボールを使って、シュート練習をしていた。トラブルもなくよくやっていた。</td>
<td>自分がどういう気持ちを表に出し、個人プレーはうまくいかが、団体種目になるとうまくいかない。今日は仲がよかった。</td>
</tr>
<tr>
<td>T.S S.S</td>
<td>玄関付近</td>
<td>T.S→ドッチボールしながら追いかけっこ。S.S→ブランコで遊ぶ。サッカーボールのPKをしていた。はずしたボールが6年生の遊びのじゃまになった。</td>
<td>前回バットや団体ボールで野球をしていった児童が、今回は、学校のボールを使って遊んでいた。安全面での成長はみられる。気をつけようにも無理なところである。しかし、ボールをかける遊びは、反対ではない。</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

- 112 -
<table>
<thead>
<tr>
<th>学年</th>
<th>配慮児童</th>
<th>場所</th>
<th>遊びの様子</th>
<th>教師の感想</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>6</td>
<td>T.N K.A</td>
<td>バスケットコート付近</td>
<td>体育器具庫からボールを持ち出し、投げっこを始める。かなり強く投げていたので、壊れが多く。投げっこをしている間を数人の児童が通ったが、意識して投げている様子。</td>
<td>前回は固いボールを用いてキャッチボールをしていて、他の児童にぶつけてしまった。少し、遊びの中にも安全に対する意識が芽生えてきた。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>K.H（他4人）</td>
<td>西サッカーゴール</td>
<td>ゴールを使ってのシュート練習。コーナーキックからのシュート。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>T.K（他4人）</td>
<td>サッカーゴール南</td>
<td>ドッチボールを使ったあっこ。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>T.Y（他5人）</td>
<td>校庭</td>
<td>ゴールに向かってパス、ドリブルしながらシュートしていた。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>全員</td>
<td>うさぎ小屋</td>
<td>うさぎ小屋で、うさぎにえさを与え食べさせる様子を見て楽しんでいた。</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

３ 指導の実際

以上のようないろんな児童の実態をふまえて、本校では学年ブロックと下学年ブロックに分かれて研究実践を進めた。以下に示す実践例は共同研究として行なってきた学級活動の、学年ブロック6年生のもののひとつである。
第6学年 学級活動指導案
平成2年7月3日 第5校時
1. 主 题 名 校庭でみんなが楽しく遊ぶには
2. 主題設定の理由〈研究課題設定の理由と重複するため省略〉
3. 児童の実態
　児童の遊びの実態をとらえるために、「みんなが楽しく遊べる」というただ一つの条件をつけてやりたい遊びを自由にやさせてみよう、ということで「校庭でみんなが自由に楽しく遊べる日」を設定した。6月6日～7日、18日～19日の二日続きで2回、さらに25日と合計3回実施し、その都度、児童の遊びの様子を教師が観察し、児童からはアンケートをとった。
　その結果、3回とも今までの昼休みよりも校庭に出て元気に遊ぶ児童が多くなった。
　1回目は、東西南北と方向を気にしてずキャッチボールをする子がかなり多く見られたし校庭いっぱい使いつぶしてサッカーをする子も多かった。また、野球をしていて、プラスチック製のバットにぶつかり、痛いけどのった児童もいた。歩道も教師が観察していると、かなり危険と思われる遊びをしていたが、幸い大きな事故はなかった。
　それによく2回目は、遊び方がかなり上手になった。遊び場を考えてキャッチボールやサッカーをやっている児童が増えた。しかし、まだ何人かは、つい気持ちにいられて、広い範囲でサッカーをやったりボールをおもいきりけったりする児童がいた。
　3回目も、2回目同様に、楽しく安全に気をつけて遊んでいたが、自分の遊びが他人に迷惑をかかわらせており、危険な目に合わせていたりすることに気付いていない児童も多かった。
　児童の意識を探るために行ったアンケートとその結果は次の通りである。

校庭での遊びに関するアンケート
　① あなたは何をして遊びましたか。
　② 自由に遊べて、どうでしたか。
　③ あなたはどんなこと気にして遊びましたか。
　④ あぶない目にあったり、何か困ったことがありましたか。
　⑤ みんなで楽しく遊ぶためには、どんな約束ごとが必要だと思いましたか。

- 114 -
（2回目のアンケート結果） 6月18日

① 遊びの種類

<table>
<thead>
<tr>
<th>男 子</th>
<th>女 子</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>サッカー</td>
<td>（10）</td>
</tr>
<tr>
<td>手打ち野球</td>
<td>（9）</td>
</tr>
<tr>
<td>ボール投げ</td>
<td>（2）</td>
</tr>
<tr>
<td>鉄棒</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

計 21 20

② 自由に遊んだ感想

<table>
<thead>
<tr>
<th>感想</th>
<th>人数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>楽しかった</td>
<td>40人 （98%）</td>
</tr>
<tr>
<td>疲れた</td>
<td>12人</td>
</tr>
<tr>
<td>いつも同じ</td>
<td>1人 （2%）</td>
</tr>
<tr>
<td>つまらなかった</td>
<td>0人</td>
</tr>
</tbody>
</table>

③ 気をつけた点

<table>
<thead>
<tr>
<th>気持ち</th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>じゃまをしない</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>迷惑をかけない</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ボールをぶつけない</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>下級生にあてない</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>回りを見る</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

④ 危険な目や関った点

<table>
<thead>
<tr>
<th>目や関った点</th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ボールが飛んで危ない</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ぶつかった</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>人が混んでいた、動きづらい</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>狭い、場所がない</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>金属バットが危ない</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ラケットにあたった</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

⑤ 約束ごと

<table>
<thead>
<tr>
<th>約束ごと</th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>場所を決め、割り当てる</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>みんなで場所を使う</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>キャッチボールは危険</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ボールをぶつけない</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>危険なものは持ってこない、しない</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
自由遊びのアンケートから（遊んだこと，困ったことやあぶない目があったこと）

以上のことからもわかるように、かなりの児童が、遊ぶ場所を選んだり周囲の状況に気を配ったりして、安全に遊べるようになった。しかし、自由に遊べた反面、休みの際に遊べない児童がいた。特に、常に危険を感じながら遊ばなければならずという問題が出てきた。

そこで、みんなが安全で、しかも楽しく遊べるために、今までの自分が遊び方の問題点を見つけ出し、それを解決するための具体的な目当てを各自考えさせるために、学年活動の指導を行うことにした。

4. 本時の指導
(1) ねらい
・校庭でみんなが楽しく遊べるためには、自分は何ができるかを考えることができる。
・実践カードを作成して、積極的に遊べばという実践への意欲を持つことができる。

(2) 同和教育との関連
・校庭でみんなが楽しく遊べるためには、自分だけが楽しめるという自己中心的な考えではなく、相手のことを思いやって仲良く遊んだり、譲り合ったりしていくことが大切であることに気づかせたい。
・自分の考えがみんなの前ではっきり話せるようにさせる。

(3) 配慮児童
A児
物を使って遊ぶことが多いが、迷うことから、困ったことや困った目があったことがある。

B児
体を動かすなりも休み時間や学習はして、自由遊びは5人でサッカーをする。

(4) 展開
5. 事後指導
自分の大切な日は子どもたちの評価させ、謳歌させる。
(3) 配慮児童の抽出とその指導

A児

物を使って、一人または少人数で校舎内で遊ぶことが多かったが、少しずつ休み時間も外で体を動かして遊ぶようになってきた。

1回目の自由遊びの時は、家から水でっぽうを持ってきて、5,6人で水をかけあって、服までびしょびしょにして遊んでいた。2回目の時は、2人組で校庭の隅のへいぎわのところで、サッカーボールのけりあいをしたり、自分で作ったボールのようなものをけて遊んでいた。3回目になると、教師が与えたスポンジボールが気に入ってか、校庭の真ん中で比較の多くの人数で三度ぶつけをしていった。

遊びが少しずつ積極的になってきたので、本時には多くの友達と体を動かして遊ぶことの楽しさを理解させ、周りの状況にも気を配り、何が危険なことか分かるようにさせていきたい。

B児

体を動かして遊ぶことが大いへん好きで、いつも休み時間や放課後、校庭でドッジボールやサッカーなどをしている。

自由遊びの時も、1回目から2回目まで、毎日5,6人でサッカーをして遊んでいた。1回目の初日は、今まで禁止されていたサッカーができていたのでたいへん楽しかったが、翌日になると校庭が混んでいて、思い切り遊べず楽しくなかったと感想を書いてある。2回目になると遊び方を少し工夫し、人が近くにいる時はあまり強くけらないように気をつけていた。しかし、飛んでくるドッジボールをけり返したり、固い皮のボールを使っていったりして、周りに危険を及ぼしているには、あまり反省がない。

そこで、本時には、今までの遊びのなかで本人なりに工夫していたことを認めてあげながら、自分が気が付かないところで周りに迷惑をかけていたり、危険を及ぼしたりすることもあるということに気づかせていきたい。

(4) 展開（次頁）

5. 関連指導

自分の目当てが記入されている実践カードを使い、次の「校庭でみんなが楽しく遊べる日」はもちろん、普段の休み時間の遊びの時も、自分の目当てが守れたかどうか自己評価させ、認め励ましながら指導を継続させていった。
<table>
<thead>
<tr>
<th>過程</th>
<th>児童の活動</th>
<th>教師の活動</th>
<th>指導上の留意点</th>
<th>資料</th>
<th>時間</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>問題の把握</td>
<td>1. グラフについて気づいたことを発表し問題をつかむ。</td>
<td>♦アンケートの結果をまとめたグラフを提示する。</td>
<td>・自由遊びをして楽しんだという児童が多かったが、その中には困ったり危険な目にあった児童も少なくないかったことに気づく。 ・自由遊びのなかの危険なことを問題として追求していくことを確認する。</td>
<td>グラフ1 グラフ2</td>
<td>5</td>
</tr>
<tr>
<td>問題の分析</td>
<td>2. 自由遊びの様子を映したビデオを見て自分の体験を思い出す。</td>
<td>♦見開き、問題を提示する。 ・自由遊びをして困ったり危険な目にあったのはどんなことですか。</td>
<td>・ビデオで具体的な場面を見て、自分たちの遊びの問題点を見出し出す。 ♦ビデオに映っている児童を批評することのないようにすること。</td>
<td>ビデオ</td>
<td>10</td>
</tr>
<tr>
<td>3. 困ったり危険な目にあった事を発表する。</td>
<td>♦児童の意見をまとめ、問題点を整理してグラフを提示する。</td>
<td></td>
<td></td>
<td>グラフ3</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>問題の解決</td>
<td>4. 問題点についての解決策をグループで話し合い、カードに書いて提示する。</td>
<td>♦見開き、問題1を提示する。 みんなが楽しく遊べるように解決策を考えよう。</td>
<td>・解決が着実で考えであれば、相手のように同じ。 Bipolarな考え方であったり、表現的なもののあっ たり、理解的な考え方であったり、遊びの状況を具体的に 現示したり、危険な遊びをする姿を見つめ、本当に した遊びを思い出し、遊べるように指導する。</td>
<td>作業用紙</td>
<td>15</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>♦児童指導をする。</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>♦出された対策について考えさせる。</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>5. 今後の遊びでの自分の行動のめてを考え、実践カードに記入する。</td>
<td>♦見開き、問題2を提示する。 自分を楽しく、みんなも楽しく遊ぶために、あなたはどのように工夫して、これから遊びますか。 ♦やりたい遊び・工夫すること</td>
<td>・自分が楽しく、相手も楽しく、まわりも楽しく遊ぶため に、自分は何をすることができるかを考えて、具体的な 行動の目的を立てさせる。</td>
<td></td>
<td>10</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>♦児童指導をする。</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>実践への意欲づけ</td>
<td>6. 実践カードに書いた自分のめてを発表する。</td>
<td>♦具体的に効果的な目標の立て せる。</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>♦できるならA児、B児にも見せ たい。</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
④ 校庭使用についての改善

1学期の間、継続して行われてきた研究実践と7月の学級活動の授業を通じて、児童の遊び方に対する意識の変容が少しずつ見られるようになっていた。児童自身が、今までの遊び方の問題点に気づき、それを解決するための具体的な目当てを考えるものなってきたのである。自分ばかりでなく、遊び相手もまた「みんなが楽しく、安全に」ということを念頭に置いて、遊び方の工夫が少しずつ見られるようになってきた。10月に行われた児童会観光大会に向けてのドッジボールの練習でも、休み時間に学年から学年までの多くの児童が、うまく校庭を分け合いながら、しかも十分に楽しく遊んでいる姿が見られた。が、先を比較的少なかったようである。

しかしながら、4月から私たちが考えてきた、休み時間の校庭使用の改善という点では、依然「山前小のきまり」による遊びの規制が残っており、児童会総会で出された「ボールをついて遊びたい」という児童の願いもかなえられていなかった。そこで、校庭使用について、職員間でも学校の決まりを見直していくべきではないかという声が高まり、そのための職員間の共通理解が不可欠になってきた。

10月24日、職員会議がなされ、そこで校庭使用の計画作成について話し合った。その結果、児童指導主任、体育主任、児童会担当主任を中心に、さらに学年1名ずつの代表からなる、校庭使用検討委員会が作られ、提案を作成していくことになった。

検討委員会では、校庭使用についての解決改善ということを、児童の遊びの改善と結びつくものとしてとらえ、児童の体力作りおよび安全指導の両面から具体的な方策を考え、次の2点を改善策として提案した。
(1) 休み時間、ボールをついてもよいこと。
(2) 体育器具庫のボールを自由に使ってよいこと。

ただし、留意点として、(1)については、けっしてよいのはゴム製のサッカーボールのみとし、校庭全面を使っての試合などはやらずに、遊ぶ場所、遊び方については安全に十分に注意した上で工夫させること。また、(2)については、もっと自由にたくさんのボールを使えるようにという配慮から、その分、ボールの使い方、後片付けについては十分責任を持たせることを確認した。さらに、各学級での遊び方の指導および安全指導を随時行うこととした。

以上の改善策を11月28日の職員会議で提案し、その後実施していく中で、児童の様子について観察し、必要ならば再度検討するということで職員間の了解を得て、現在、試行という形で、ボールをつけることと器具庫のボールを使うことが解禁されている。子どもたちは、この改善を受け大変喜んで受けとており、休み時間もボールを使って遊ぶ子が増え、サッカーを楽しむに至っている子も多い。反面、思いきりボールをつけて、周りに迷惑を与えたり、ボールがきちんと片付けられずに残っているなどの問題もあるが、それらも今後、教師の随時の指導と、児童自らの気付きによって、解決していくことを期待したい。
6. 研究の成果

(1) 研究の成果

① 学校施設

大規模校がなくて、一人でできない。

安全性確保のための準備

ア、遊びの場

イ、遊びの場

ウ、運動方法

エ、エネルギー

以上の場面の自然の欲求に制限が加えられ、

しかし、児童の問題点を

そして児童会の

持ちが言えるよう

児童会の代表

を通して一人

希望実現のため

してきたため

を真剣に考え

② 安全性確保

話し合うだけで実施し、

が、既成の道

でいる姿が

次の「自由遊

いむる指導」をし

保の行動を

という言葉が

ってきたと重

の確保に努め

の日」の観

③ 偏在

偏在の傾向が多い。

左記にかかげたグラフは、

平成2年度の学校災害報告表

護教諭からの報告である。

4月から12月までのものであ

る。（紙面の都合上、平成元年度のものは、割愛）

第6図の傷病別災害発生件数

から、元年度と2年度との

比較すると、骨折等の大きさな

けがは幅のある状態で小さなもの

がは少々増加の傾向であっ

た。分析すると、校庭で遊ぶ

児童が増え、その割には、小

さなけがで済んでいるということである。

第7図場所別

場所別では、休憩時間等

休みの災害発生状況を見る

と、前年に比較して校庭の

けがが減少している。

種目別では、ボールでのけ

がが増加したが、「自由遊

び」により、ボールを使って

遊ぶ遊びが増加したためと推

測できる。

結果として、けがの減少は

きわまったものではないが、

小さなければならない

なことはできている。遊びがきさかに

なり、小さなもので済むよう

になったと考えられる。さら

に、小さなものも減少すれば

と期待する。
6. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

① 学校課題（「聞く意欲・話す意欲を高める指導」）からの成果

大規模校のかかえる問題のひとつに、遊び場の確保があげられる。いかに広い校庭であっても、一人あたりの遊び場面積は小さく限られたものになってしまう。小さくしなければならない理由としてあげられるのが、安全性の確保である。本校でも、その安全性の確保の打開策として、遊びへの規制を実施してきた。その結果、

ア、遊びの種類の固定化

イ、遊びの少人数化

ウ、運動あそびの敬遠

エ、エネルギー発散の場の減少

以上のような問題点が発生し、同時に規制によって、遊びへの制限が生じ、児童の自然の欲求（自由に体を動かす。創造性的高まりからの様々な形のチャレンジなど）に制限が加えられた形となってしまった。

しかし、児童の自然の欲求は、「ボールをこげたい」という声となり、記録のアーカイブの問題点を無意識の中に解決しようとする、自由遊びへとその声は高まっていった。そして児童会総会には、児童の希望として提案された。このことは、「自分の考えや気持ちが言える子供」をめざし、指導・研究してきた成果のひとつかも知れない。さらに、児童会の代表委員会・学級活動の時間を通して、討議や協議をくり返し、アンケート等を通じて一人一人の児童の意見も取り上げ、職員会議等でも検討を加え、教師も児童の希望実現のために共通理解を図ろうとしてきた。教師が個々の意見を取り上げようと努力してきたために、より率直な意見も出て来て、児童も「より安全な校庭での遊び方」を真剣に考えようとしている。

② 安全性確保の努力

話し合うだけでは何の解決にも至らないという共通理解から、『自由遊びの日』を設けて実施し、遊びの様子を観察してみると、初期の段階では、様々な遊び方がとび出したが、既成の遊び道具（水でっぱらからローラースケート・スケートボードまで）で遊んでいる姿はほとんどで、創意を起こさせるものがほとんどなかった。その現状から、次の『自由遊びの日』までに、校庭での遊びについて学級活動を通して、「考えさせる指導」をしてきた。その結果、規制を設けて遊んでいた時期よりも意図的に、安全性確保の行動を取り始めた。自由遊び後の調査でも、ほっきりと児童の反省の中にも「安全」という言葉が出てきた。自由遊びをくり返す中で、確実に児童の安全性への意識は高まってきたと考えられる。行動の中にも、「楽しく遊べる」ことを保障してくれる安全性の確保に努力をはらいうとしている姿が見られる。自分だけの楽しそうから、まわりの人達の楽しそうまで考えて遊ぼうとしている児童が、少しに増えてきている。（『自由遊びの日』の観察や関連児童の行動の分析及び日常の生活の行動から）
(2) 今後の課題
「自由遊び」の回数を、さらに増やし、実際の場面での経験を通して、より安全な遊び方を考えさせていく必要がある。そして、例え「ボールをやっても」まわりの人達に当たらないすむように、まわりへも注意を払った遊びができるようにさせるには、
① 校庭使用の工夫
② 遊びの改良
ア、ルールの工夫
イ、方法の工夫
ウ、場所の工夫
③ 遊び場所のゆずりあい
④ 安全性確保のための話し合い
などが、あらゆる場面で試みられなければならない。「自由遊び」をくり返し、
◎ より安全な遊び方
◎ より楽しい遊び方
を、児童、教師が共に追求していかなければならない。そして、規制（従来の、校庭使用のきまり）による安全の確保でなく、児童の安全性の意識の高まりによって、『本来の自由遊び』を可能にすることを期待して指導の継続を図っていきたい。

評

危険から子どもを守ってやることは、大人の大切な役目の一つである。日常生活や遊び、交通事故の中には、常に危険が伴っている。だから、子どもがそれらの中で行動していく時、危険な条件を一つでも取り除いてやることが必要である。

しかし、日常生活の中に潜む様々な危険を自ら予測し、対処していくことが子ども達に本当に身に付いているのだろうか。必要以上に守ってやるために、危険を予測する能力を養んでいるのではないか。

こうした角度から安全指導や安全管理を見直してみると、山前小学校のこの教育実践は、極めて意義のある研究である。研究課題「自分達で安全性を確かめ合いながら、積極的に遊べる児童の育成」の解決のために、次のような柱に基づいて実践を進めました。

子ども達の遊びについての実態をていねいに把握する。「自由遊びの時間」を設け、自分で安全を確かめ、積極的に遊べる場とする。この時間で起こる問題を常に、自分の問題としてとらえさせるために、学級活動や児童会に返す。全職員の一人一人の問題として、取り組む等である。

日常生活の中に潜む危険を予測し、常に安全を確認し、正しい判断のもとに安全な行動ができるとは、生涯体育の視点から大切な態度と能力の一つである。